鳥の巣講座 テキスト

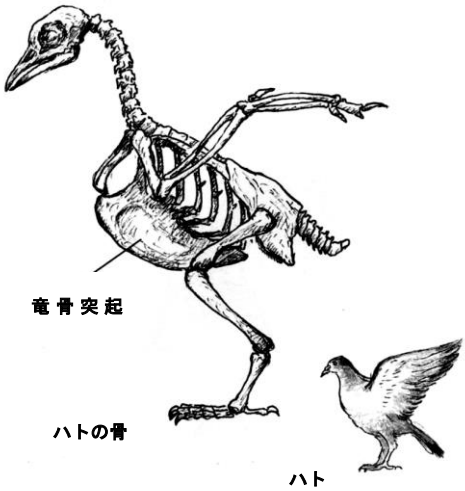
鈴木まもる

コンプソグナトゥスの骨

コンプソグナトゥス

始祖鳥の骨

始祖鳥

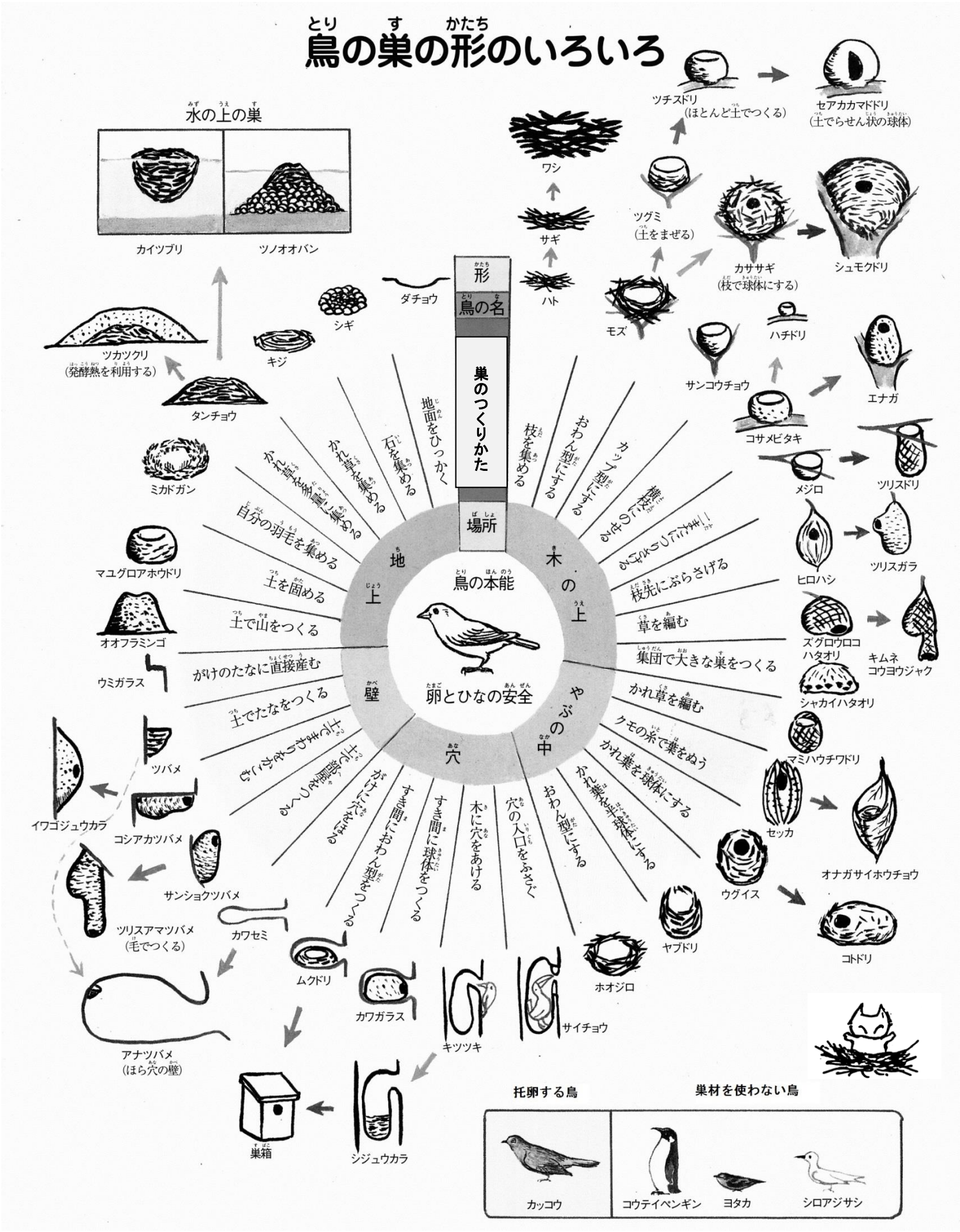


ハトの骨

ハト

『鳥の巣研究ノート』（あすなろ書房刊）より

鳥の巣の形のいろいろ



『世界の鳥の巣の本』（岩崎書店刊）より

鈴木まもる　略歴

画家・絵本作家・鳥の巣研究家

1952 年　東京に生まれる。東京藝術大学美術学部工芸科中退。

1986 年より伊豆半島在住。

絵本・童話の挿絵など児童図書の絵をおもに描いている。

主な絵本の仕事

「せんろはつづく」「すすめ　きゅうじょたい」「てをつなぐ」（金の星社）「みんなあかちゃんだった」「だっこ」（小峰書店）「ピンポンバス」「おはよう！しゅうしゅうしゃ」「いそげ！きゅうきゅうしゃ」（偕成社）「だんろのまえで」（教育画劇）「ウミガメものがたり」（童心社）「いのちのふね」「つかまえた！」（講談社）など。

1995 年「黒ねこサンゴロウ」シリーズで赤い鳥さし絵賞受賞。

2006 年「ぼくの鳥の巣絵日記」で講談社出版文化賞絵本賞受賞。

2015 年「ニワシドリのひみつ」産経児童出版文化賞受賞。

2016 年「世界６５５種、鳥と卵と巣の大図鑑」あらえびす文化賞受賞。

NHK「プレミアム８―ワイルドライフ、群れで生き抜くーシャカイハタオリ」

（ナミビアで撮影）に出演。アルベール国際動物映像祭　特別審査員賞受賞

絵画活動と並行して鳥の巣の研究をしている。

鳥の巣の主な展示

1998 年　東京新宿のギャラリー高野にて、日本初の「鳥の巣展覧会＆原画展」を開催。

その模様は NHK 教育 TV「新・日曜美術館」でも放映された。

以後ギャラリー高野にて 1999、2001、2002 年開催。

2002 年　ニューヨークのギャラリーAnnex にて初の海外展「NESTS」を開催。

2003 年　大阪市立自然史博物館、横浜ランドマークタワー等で展示。

2004 年　大分アートプラザにて「鳥の巣展覧会＆原画展」を開催。

2005 年　調布市文化会館にて「世界の鳥の巣と原画展」開催。

2006 年　東京武蔵野市立吉祥寺美術館。「実物とイラストで見る鳥の巣の造形美」開催。

2008 年　上野動物園、『世界の鳥の巣と原画展』。2009 年　渋谷ギャラリー櫟「鳥の巣と絵本原画展」

2012 年　坂出市民美術館以降、全国各地で展覧会を開催。

2017 年　三島ビュフェ美術館

NHK「新日曜美術館」、「生活 HOT モーニング」、「視点。論点」「モリゾートキッコロ」

BS2「熱中時間」など TV 出演多数。

鳥の巣を扱った著書

「鳥の巣の本」「世界の鳥の巣の本」「ぼくの鳥の巣コレクション」　「ニワシドリのひみつ」「鳥の巣つくろう」(岩崎書店)「鳥の巣みつけた」「鳥の巣研究ノート①②」（あすなろ書房）「ぼくの鳥の巣絵日記」「鳥の巣いろいろ」「ふしぎな鳥の巣」「鳥の巣ものがたり」「ツバメのたび」「日本の鳥の巣図鑑、全２５９」（偕成社）「バサラ山スケッチ通信」「ぼくの鳥の巣探検」「世界の鳥の巣をもとめて」（小峰書店）「おじいさんとヤマガラ」(小学館)　アメリカにて「世界の鳥の巣の本」英語版出版。「世界６５５種　鳥と卵と巣の大図鑑」（ブックマン社）「ぼくのたからもの」(アリス館)「生きものたちのつくる巣　１０９」（エクスナレッジ）「わたり鳥」（童心社）

小さないのちの芸術作品

ノンフィクション作家　　柳田　邦男

鳥の巣は「いのちの生まれるところ」だと教えてくれたのは、鈴木まもるさんだ。

鳥の巣は「子どものそだつところ」だと教えてくれたのも、鈴木まもるさんだ。

その言葉を聞いて私が驚きに近い感動を覚えたのは、数年前の「鳥の巣展」の会場でさまざまな鳥の巣の実物を観ていた時だった。言われてみればあたりまえのことについて、自分がただ知識として理解していたに過ぎなかったのを、鳥の巣の実物を見て気づかされたからだ。

不思議な美しさが、そこにはあった。まるで精密工学の製造物のようだが、機械製品とは全く質が違う。鳥の種類によって、巣の材料も形も大きさも違う。一つ一つに個性がある。あの小さな小さな頭脳が、こんなにもみごとな造形作品を、あの小さな嘴でスピーディに作ってしまう。「小さないのちの芸術作品」と言おうか。身近ならウグイス、メジロ、オオヨシキリなどの可愛らしい巣にはじまり、アメリカやアフリカなどのそれぞれの風土ならではの奇怪な形の巣まで、実物やスケッチのオンパレードに接すると、私などはただ驚嘆するのみだ。

しかも美しいだけではない。材料と構造の両面において、母鳥が卵を温めやすくするためにも、か弱いひなをウィルス、細菌、かびなどから守るためにも、実に衛生的に作られているのだ。鈴木さんは、そういう科学の目で見た鳥の巣のすばらしさについても教えてくれた。

世界の鳥の巣の観察と収集という、他の誰もやらなかったこのユニークな鈴木さんの仕事に、私は大きな賛辞をおくりたい。子どもも大人も、この多種多様な鳥の巣たちの実物を、自分の目で見て、感じ、考えてほしい。